

景況調査

報告書 NO. 80

平成30年 7月～9月 実績
平成30年 10月～12月 見通し



蒲郡商工会議所
中小企業相談所

平成30年度第2四半期(H30. 7～9月)景況調査

1. 調査時点 平成30年9月5日～25日

2. 調査対象
 (1)対象地区 蒲郡市内
 (2)対象(回答)企業 105[98企業、7団体＝三河織物工業(協)、中部繊維ロープ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡地区旅館組合、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法 聞き取り調査によるアンケート調査

4. 回答企業の内訳

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	52 (3)	9 (2)	11 (1)	15	10 (1)	8	105 (7)

※ ()は団体

5. 概況

全業種総合判断DI値(当期実績)は、前期比で△11.5、前期実績(7～9月△7.4)に比較すると4.1ポイントの下降、悪化の傾向が見られ、前年同期比では△12.4、前期実績(1～3月△7.4)と比較すると5.0ポイントの下降、悪化の傾向が見られた。**売上DI値**については、前期比で△10.5ポイント、前期実績(7～9月△5.5)と比較すると5.0ポイントの下降、悪化の傾向が見られた。**収益DI値**については前期比で△12.4、前期実績(7～9月△17.4)と比較すると5.0ポイントの上昇、悪化の傾向が見られた。**総合判断来期(H30.10～12月)見通し**については0.9、今期の実績(全業種(当期実績)前期比 △11.5)と比較すると12.4ポイントの上昇・改善の見込みあった。

「**製造業**」のうち食料品は酷暑による食欲不振の影響もあり低調。織物は、寝装関係は多重織りガーゼに落ち着きが出ている。ジャカードカーテンは深刻な低迷。漁網・ロープは一部では生産・販売とも前年同月比を10%前後超えが伝えられるも、前年同期比・前期比で水面下。鉄工のうち工作機械関係の受注額全体は好調を維持も、堅調な内需に対し、中国向け鈍化を懸念。自動車関係はトヨタ国内日当たり生産は当初予測をやや上回る1万2千～3千台で推移。化学は国内向けは堅調。輸出は中国・インド向け好調。プラスチックは全体的には堅調も、原材料値上で採算圧迫が見られた。

「**建設業**」は、4～6月の閑散期を抜け売上は増加も、収益・総合は横バイから低調。

「**卸売業**」のうち、繊維卸は＜産業資材＞世界的な保護主義横行による経済鈍化と、個人消費の低迷で厳しい状況。＜インテリア＞梅雨明け早く、猛暑もあり7月初旬から夏物急増。＜寝装寝具＞猛暑で冷感商品が好調。冷房期間の延びで肌布団・ブランケットも動いた。＜アパレル＞素材では細番手強撚糸使いが好調。他に麻との複合素材に動きあり。反面、多重織ガーゼは鈍化。製品では猛暑も盛り上がり欠けた。8月中旬からの秋物も輸入品には一部動きあるも、国産品は価格面で展開しにくい状況。

「**小売業**」は、低調な状況も、全ての数値でマイナス幅が縮小した。石油等その他小売は原油需給では、やや供給超過で推移しながらも、OPEC協調減産の内容や米国によるイラン経済制裁等の影響も受けて、70ドル台前後と高値圏で推移した。

「**サービス業**」のうち旅館関係は宿泊客数は対前年比で横バイから微減。国内旅行客の減少もあり、インバウンド比率が上昇。酷暑や大型台風など自然災害の影響下で横バイは健闘か。

「**運輸通信業**」 貨物輸送では完成車の欧米向け輸出は月1万台の好調を維持。海上コンテナ貨物・鋼材移入も好調を維持。旅客関係では8月の売上が特に伸び、昨年7～9月に対して売上アップ。

設備投資状況は、29事業所(50件)で設備投資が実施され、生産設備他に投資された。来期は35事業所(59件)が設備投資を計画している。

経営上の問題点では売上の停滞・減少、人手不足、利幅の縮小、原材料(燃料)高、人件費の増加が項目別で上位を占めていた。

当地区において

平成30年度第2四半期は、前期に引き続きほぼ全ての数値が水面下となった。業種別では、鉄工、旅客・貨物、輸送・水運は好調な半面、他の業種では横バイから悪化の状況が見られた。また、経営上の問題点では、売上の停滞・減少を人手不足が上回る勢いで、中小企業の慢性的な課題となっている。地方における個人消費の停滞感が長引く状況で、本所では平成29年度以降の新アクションプランの実行を通じて、地域経済の持続的発展を図る所存である。

全業種(当期実績)

(DI 単位:%)

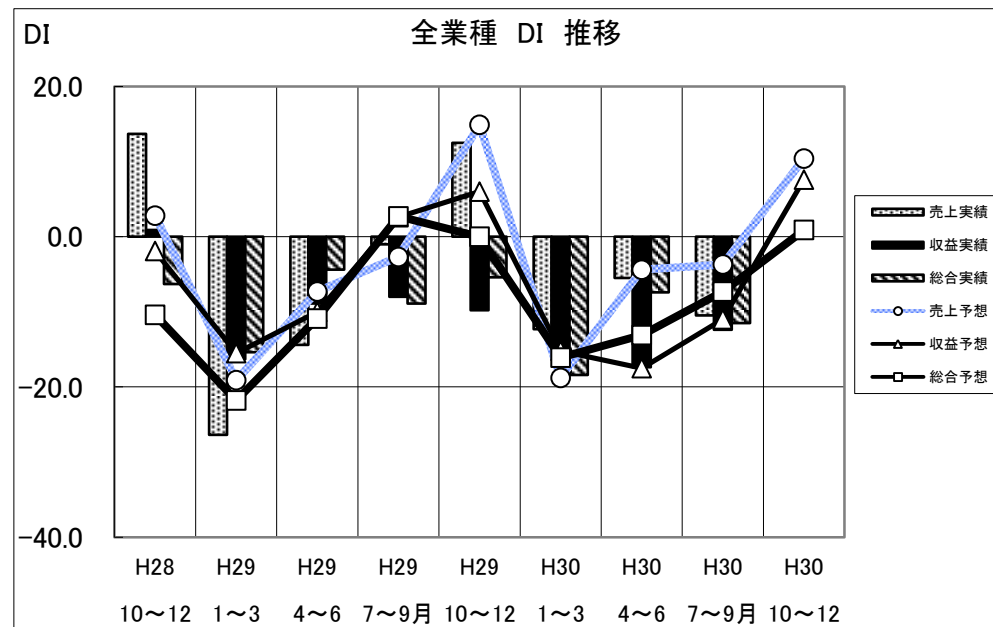
<全業種 各項目別推移>

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年7～9月 に比べて	前期比 平成30年4～6月 に比べて	来期見通し 平成30年10月～12月 の見通し		売上		収益		総合判断		
					前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し
①生産額・売上額	-1.9	-10.5	10.4	H29. 7～9月実績	0.0	-1.0	-8.9	-8.0	-2.0	-8.9	0.0
②製品・商品在庫	-10.5	-10.4	-5.7	H29. 10～12月実績	-2.7	12.5	-13.4	-9.8	-4.4	-5.4	-16.1
③資金繰り	-2.8	-4.8	-1.0	H30. 1～3月実績	-0.9	-12.3	-16.7	-15.0	-12.3	-18.4	-13.1
④採算(収益)	-16.2	-12.4	7.6	H30. 4～6月実績	-2.7	-5.5	-11.2	-17.4	-7.4	-7.4	-7.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	1.0	0.0	3.8	H30. 7～9月実績	-1.9	-10.5	-16.2	-12.4	-12.4	-11.5	0.9
⑥貴社の業況(総合判断)	-12.4	-11.5	0.9								

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物輸送・水運)			



<業況判断DIの推移>

	10~12月	H29.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	13.7	-26.4	-14.4	-1.0	12.5	-12.3	-5.5	-10.5	10.4
収益	0.9	-16.3	-8.9	-8.0	-9.8	-15.0	-17.4	-12.4	7.6
総合	-6.3	-15.4	-4.4	-8.9	-5.4	-18.4	-7.4	-11.5	0.9

◎DI (デフュージョン・インデックス 業況判断指数)について

DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%)=増加・良好などの割合-減少・悪化などの割合

(注)生産額・売上額 :DI=(増加)-(減少)

製品・商品在庫 :DI=(減少)-(増加)

資金繰り :DI=(好転)-(悪化)

採算(収益) :DI=(上昇)-(下降)

従業員数 :DI=(増加)-(減少)

業況(総合判断):DI=(好転)-(悪化)

DIが0より大 ⇒ 景気上向き

DIが0 ⇒ 景気横ばい

DIが0より小 ⇒ 景気下向き

(総合判断のDIの目安)

DI 50%以上



DI 6~49%



DI 5~-5%



DI -6~-49%



DI -50%以下



6. 業種別報告

製造業

売上DI値は△17.3、前期実績(4～6月期 16.0)に比して33.3ポイントの下降、収益DI値は△17.3、前期実績(4～6月期(△10.0)に比して7.3ポイントの下降、総合判断DI値は△11.6、前期実績(4～6月期(8.0)に比して19.6ポイントの下降と、売上・集積・総合ともにDI値の下降が見られた。

向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合いずれの数値も上昇し改善の傾向がみられる。

製造業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年7月～9月 に比べて	前期比 平成30年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成30年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	11.6	-17.3	17.3
②製品・商品在庫	-3.8	-5.8	-1.9
③資金繰り	-7.7	-7.7	-3.8
④採算(収益)	-28.9	-17.3	13.4
⑤従業員数(含む臨時・パート)	13.5	-2.0	3.8
⑥貴社の業況(総合判断)	-17.3	-11.6	5.8

[食料品]

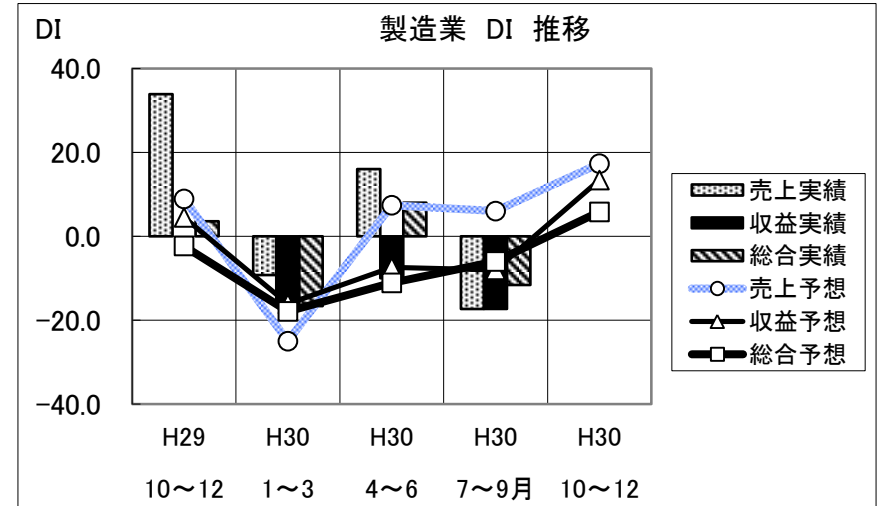
売上は前期比DI値は△66.7%と上昇、前年同期比ではDI値16.6%と上昇。収益では、前期比DI値で△33.3%と下降、前年同期比では△33.3%と下降。総合判断では前期比DI値は△33.3%と下降、前年同期比はDI値△16.6%と下降、ほぼ全ての数値で前期比・前年同期比とも下降の厳しい状況。今夏は酷暑による食欲不振の影響も受けた。

向こう3ヶ月の見通し 売上DI値66.7%、収益DI値66.7%、総合判断DI値33.3%と、年末の需要期を迎えて当期に比べて業況は改善する見通しである。いかに消費者ニーズを捉えた商品を提供できるかが課題となっている。愛知県産小麦や三河湾産アサリ、東三河の農産物など地産食材を活用した商品展開に力を入れている企業が見られ、今後も地域性を売りにした商品開発の動きが期待される。

(食料品)

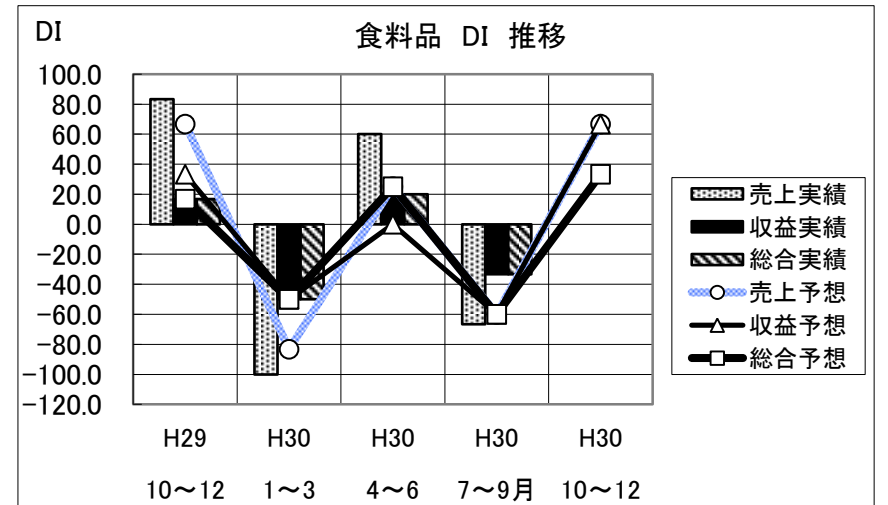
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年7月～9月 に比べて	前期比 平成30年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成30年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	16.6	-66.7	66.7
②製品・商品在庫	-33.3	-33.3	0.0
③資金繰り	-16.6	-16.7	33.3
④採算(収益)	-33.3	-33.3	66.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	-33.3	33.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-16.6	-33.3	33.3



<業況判断DIの推移>

	10～12月	H30.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
売上	33.9	-9.2	16.0	-17.3	17.3
収益	0.0	-16.7	-10.0	-17.3	13.4
総合	3.6	-16.6	8.0	-11.6	5.8



<業況判断DIの推移>

	10～12月	H30.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
売上	83.3	-100.0	60.0	-66.7	66.7
収益	16.7	-50.0	20.0	-33.3	66.7
総合	16.7	-50.0	20.0	-33.3	33.3

【織物】

寝装関係は、多重織りガーゼの受注にやや落ち着きが出てきている。インテリア向けジャカードカーテンは、深刻な状況が続いており、産業資材も苦戦している状況。

向こう3カ月の見通し

多重織りガーゼについては継続した受注が見込まれる。

(織物)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成29年7月～9月 に比べて	前期比 平成30年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成30年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-66.7	-66.7	16.7
②製品・商品在庫	-33.3	-33.3	-16.7
③資金繰り	0.0	0.0	-16.7
④採算(収益)	-50.0	-50.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-16.7	-16.7	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-66.7	-50.0	-33.3

【漁網・ロープ】

個別企業によるバラツキはあるが、前年同期比・前期比ともに水面下の状況。一部では、7・8月期は生産・販売とも前年同月比を10%前後超えたという報告もあったほか、原材料・運賃等の値上げに伴う価格転嫁の影響もみられた。

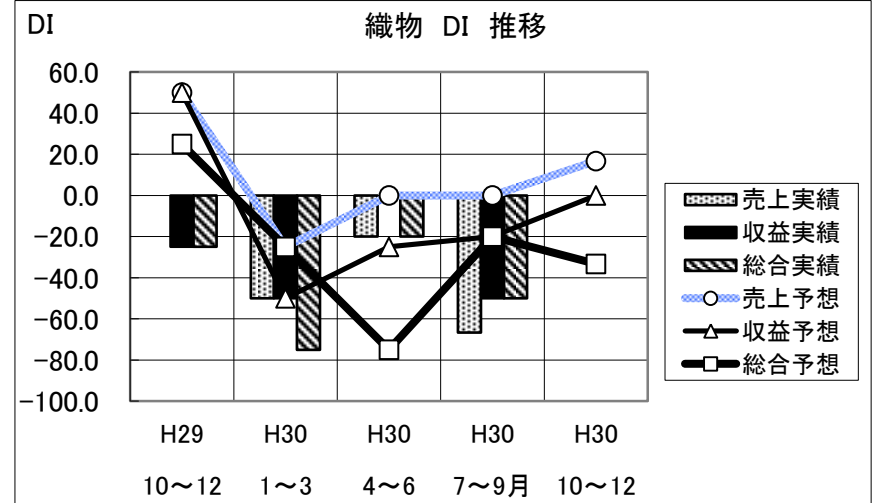
向こう3カ月の見通し

原材料・運賃等の値上げにで製品販売価格が値上がりしており、今後の推移は不透明である。(繊維ロープ部会)

(漁網・ロープ)

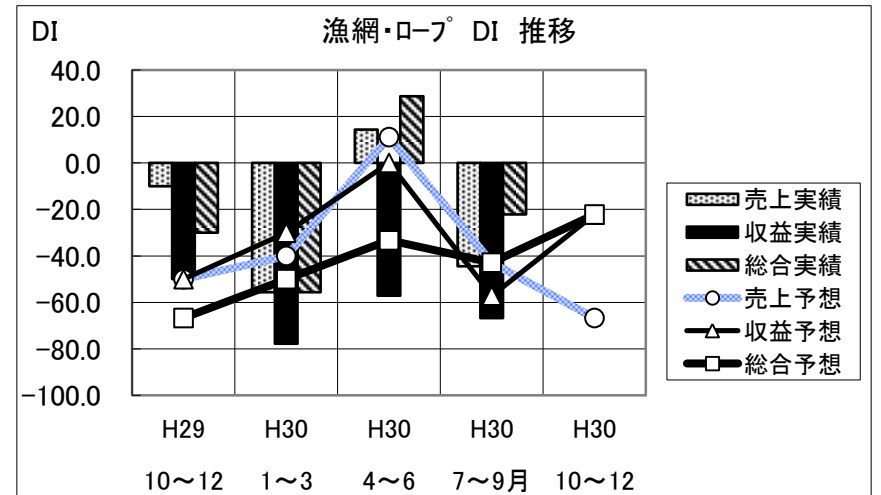
(DI 単位: %)

	前年同期比 平成29年7月～9月 に比べて	前期比 平成30年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成30年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-22.3	-44.5	-66.7
②製品・商品在庫	-11.1	-11.1	-22.2
③資金繰り	-22.2	-22.2	-22.2
④採算(収益)	-55.6	-66.7	-22.2
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	-22.2	-11.1
⑥貴社の業況(総合判断)	-33.3	-22.2	-22.2



<業況判断DIの推移>

	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	0.0	-50.0	-20.0	-66.7	16.7
収益	-25.0	-50.0	0.0	-50.0	0.0
総合	-25.0	-75.0	-20.0	-50.0	-33.3



<業況判断DIの推移>

	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	-10.0	-55.6	14.3	-44.5	-66.7
収益	-50.0	-77.8	-57.1	-66.7	-22.2
総合	-30.0	-55.6	28.6	-22.2	-22.2

[鉄工]

<工作機械関係> 日本工作機械工業会の受注総額(内需・外需)では、7月1,511億円、8月1,403億円、9月は1,532億円。受注額全体としては好調を維持しているが、堅調な内需に対し、外需は前年同期を割り込む月もあり、中国向けの鈍化が懸念材料。向こう3カ月の見通し 米中経済摩擦の長期化による経済全体の失速が懸念材料。

<自動車部品関係> トヨタの国内日当たり生産は、当初の予測をやや上回る1万2千~3千台で推移した。向こう3カ月の見通し トヨタは中国内での好調さが伝えられるも国内生産には一服感があり、日当たり1万1千台強の推移が予測されている。(金属鉄工部会)

(鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年7月~9月 に比べて	前期比 平成30年4月~6月 に比べて	来期見通し 平成30年10月~12月 の見通し
①生産額・売上額	57.1	19.1	38.1
②製品・商品在庫	9.5	9.5	4.8
③資金繰り	-4.8	0.0	0.0
④採算(収益)	-9.6	9.5	14.2
⑤従業員数(含む臨時・パート)	33.3	23.8	9.5
⑥貴社の業況(総合判断)	14.3	14.2	19.0

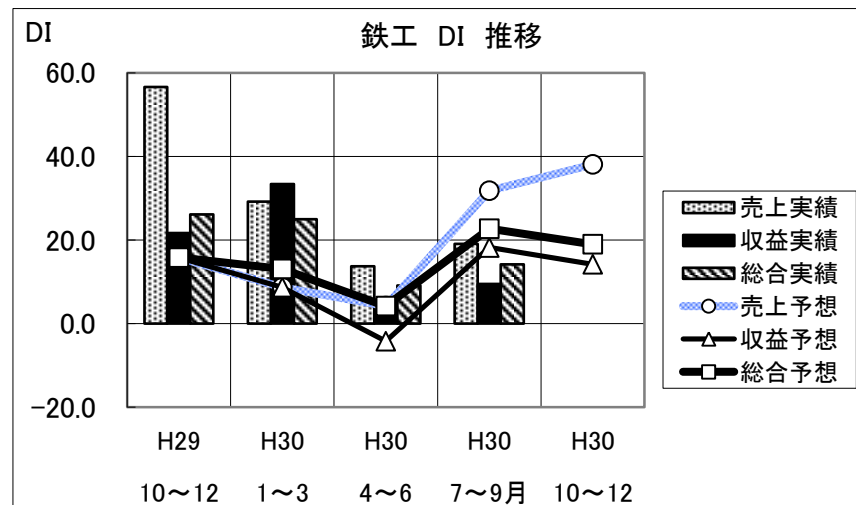
[化学・プラスチック]

<化学工業> 国内向けは堅調。輸出は中国・インド向けが好調。向こう3カ月の見通し 今期と同傾向の見込みである。

<プラスチック> 全体的には堅調だが、原材料が少しずつ値上がりしており一部では採算の圧迫も見られる。向こう3カ月の見通し 業況は引き続き堅調な見込み。総合的には横バイの見通しである。(化学部会)

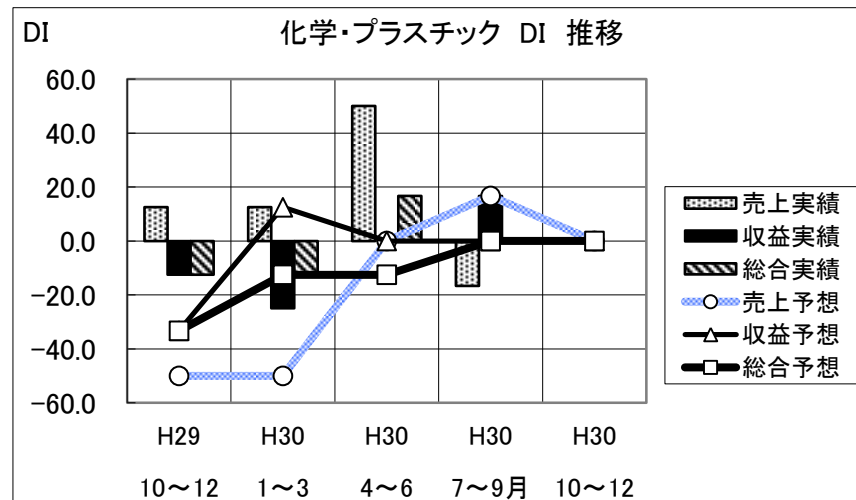
(化学・プラスチック) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年7月~9月 に比べて	前期比 平成30年4月~6月 に比べて	来期見通し 平成30年10月~12月 の見通し
①生産額・売上額	33.3	-16.6	0.0
②製品・商品在庫	16.7	0.0	0.0
③資金繰り	0.0	-16.7	-16.7
④採算(収益)	0.0	16.7	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	16.7	0.0	-16.7
⑥貴社の業況(総合判断)	-16.7	0.0	0.0



<業況判断DIの推移>

	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	56.6	29.2	13.7	19.1	38.1
収益	21.7	33.4	4.6	9.5	14.2
総合	26.1	25.0	9.1	14.2	19.0



<業況判断DIの推移>

	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	12.5	12.5	50.0	-16.6	0.0
収益	-12.5	-25.0	0.0	16.7	0.0
総合	-12.5	-12.5	16.7	0.0	0.0

建設業

売上DI値は22.2、前期実績4～6月期(△54.4)に比して76.7ポイントの上昇、収益DI値は△11.1、前期実績4～6月期(△45.5)に比して34.4ポイントの上昇、総合判断DI値は△11.1、前期実績4～6月期(△36.3)に比して25.2ポイントの上昇。売上は増加し、収益・総合は横バイから低調な状況となった。

向こう3カ月の見通し 売上・収益のDI値は引き続き上昇、総合判断は横バイの見込みとなっている。(建設部会)

建設業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年7月～9月 に比べて	前期比 平成30年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成30年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-11.1	22.2	11.1
②製品・商品在庫	-22.2	-11.1	-11.1
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	-11.1	-11.1	11.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-11.1	11.1	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-11.1	-11.1	0.0

卸売業

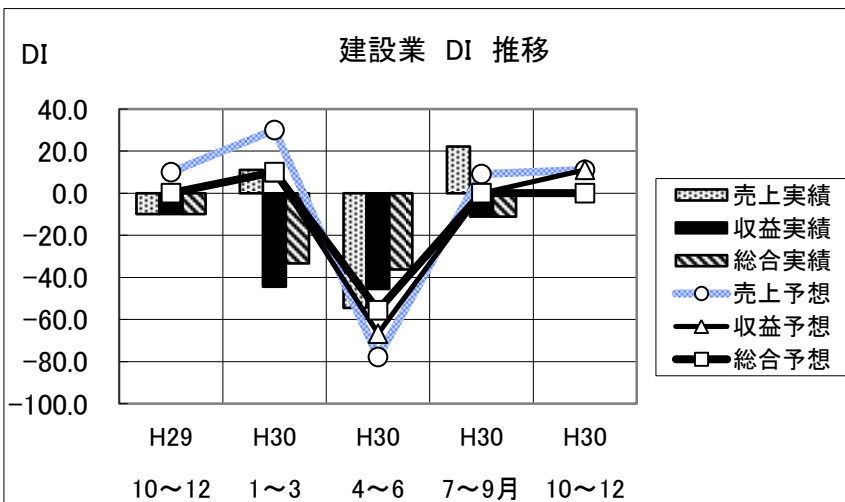
売上DI値は△27.3、前期実績4～6月期(7.7)に比して35.0ポイントの下降。収益DI値は△9.1、前期実績4～6月期(15.4)に比して24.5ポイントの下降、総合判断DI値は△27.3、前期実績4～6月期(15.4)に比して42.7ポイントの下降。売上・収益・総合ともに下降し水面下に転じた。

向こう3カ月の見通し DI値では売上は横バイ。収益・総合は僅かにマイナス値となった。

卸売業

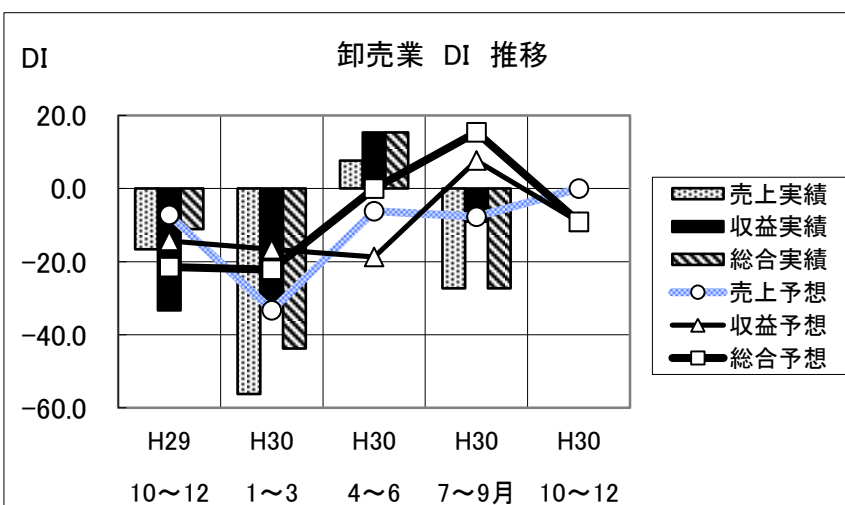
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年7月～9月 に比べて	前期比 平成30年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成30年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-60.0	-27.3	0.0
②製品・商品在庫	-36.4	-36.4	-27.3
③資金繰り	-18.2	-9.1	-9.1
④採算(収益)	-18.2	-9.1	-9.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-9.1	-9.1	9.1
⑥貴社の業況(総合判断)	-27.3	-27.3	-9.1



<業況判断DIの推移>

	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	-10.0	11.1	-54.5	22.2	11.1
収益	-10.0	-44.4	-45.5	-11.1	11.1
総合	-10.0	-33.3	-36.3	-11.1	0.0



<業況判断DIの推移>

	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	-16.6	-56.2	7.7	-27.3	0.0
収益	-33.3	-31.3	15.4	-9.1	-9.1
総合	-11.1	-43.8	15.4	-27.3	-9.1

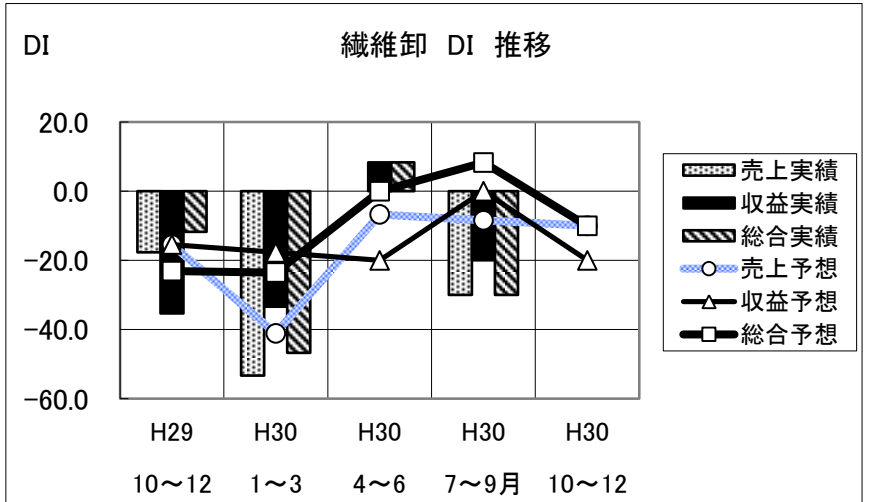
【繊維卸】

<産業資材>米政権の保護主義政策で中国はじめEU・メキシコ・カナダとの関係性が変化し全体で不透明感強まる。外需停滞は国内経済にも影響し、原材料価格高騰、賃金伸び悩み等で個人消費も低調。厳しい状況。向こう3カ月の見通し秋冬商戦は活気に乏しく外需も見通しが難しい。<インテリア>梅雨明け早く猛暑で7月初旬から夏物需要急増、8月末までに消化が終わる。秋冬商材は順調も気候変動で秋冬の短期化を懸念。向こう3カ月の見通し10月は若干落ち込み11~12月は昨年並みの見込み。残暑の動向を注視。<寝装寝具>酷暑で冷感商品の店頭在庫はほぼ消化。冷房期間が延び、肌布団やブランケットが活発。小売業の停滞で量販店・ホームセンター向け商材は年々減少。向こう3カ月の見通し 秋冬の導入が遅くなり販売期間も短期化。消費意欲の回復なくして売上確保は困難。<アパレル>素材では細番手強撚糸使いが好調。他に麻との複合素材、綿麻、レーヨン麻も動きあり。反面、多重織ガーゼの勢いは鈍化。製品では猛暑も盛り上がり欠ける。8月中旬からの秋物も、輸入品は肉厚ポリエステル素材、色はダーク系が中心。国産品は価格面で展開しにくい状況。向こう3カ月の見通し 素材ではバッグ用厚手帆布ドビー、来春夏用リネンシーティング、レーヨン麻の細番手に動きがあり。オーガニック、エコ素材も増加傾向。製品では天候に左右されるも例年並みなら可。防寒商品、特に裏起毛関係に注目。(繊維部)

(繊維卸)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年7月~9月 に比べて	前期比 平成30年4月~6月 に比べて	来期見通し 平成30年10月~12月 の見通し
①生産額・売上額	-60.0	-30.0	-10.0
②製品・商品在庫	-40.0	-40.0	-30.0
③資金繰り	-20.0	-10.0	-10.0
④採算(収益)	-20.0	-20.0	-20.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-10.0	-10.0	10.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-30.0	-30.0	-10.0



<業況判断DIの推移>

	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	-17.7	-53.3	0.0	-30.0	-10.0
収益	-35.3	-33.4	8.3	-20.0	-20.0
総合	-11.7	-46.7	8.3	-30.0	-10.0

小売業

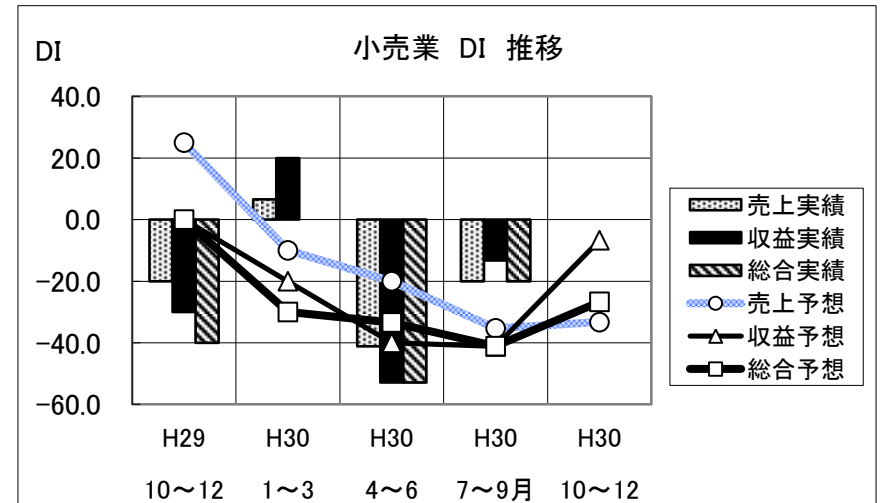
売上DI値は△20.0、前期実績4~6月期(△41.1)に比して20.0ポイントの上昇。収益DI値は△13.3、前期実績4~6月期(△52.9)に比して39.6ポイントの上昇、総合判断DI値は△20.0、前期実績4~6月期(△52.9)に比して32.9ポイントの上昇。いずれも水面下ながら、売上・収益・総合ともにマイナス幅が縮小した。

向こう3カ月の見通し 年末の需要期となるが、消費意欲の停滞により売上・収益・総合ともに水面下の慎重な見通しとなっている。(商業部会)

小売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年7月~9月 に比べて	前期比 平成30年4月~6月 に比べて	来期見通し 平成30年10月~12月 の見通し
①生産額・売上額	-40.0	-20.0	-33.3
②製品・商品在庫	-20.0	-20.0	-13.3
③資金繰り	-6.6	-13.3	-6.7
④採算(収益)	-33.4	-13.3	-6.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-6.6	-6.6	-13.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-40.0	-20.0	-26.7



<業況判断DIの推移>

	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	-20.0	6.6	-41.1	-20.0	-33.3
収益	-30.0	20.0	-52.9	-13.3	-6.7
総合	-40.0	0.0	-52.9	-20.0	-26.7

[飲食]

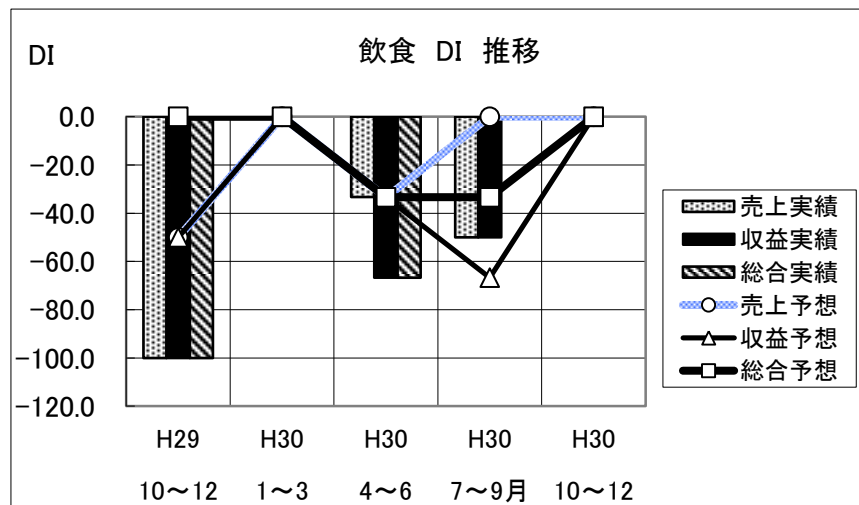
状況的にあまり変化はなく、横ばい状態が続く。お昼のランチはある程度利用頂けるが、夜のお客様は予約客が大半で小グループでの利用となっている。地元の飲食店を利用いただけることは、大変ありがたいと感じている。

向こう3カ月の見通し 全体的にはあまり大きな変化はないと思っている。忘年会に関しては、本格的な予約はこれからだと思っているが、例年並みの利用は期待している。(蒲郡市飲食業環境衛生組合連合会)

(飲食)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年7月～9月 に比べて	前期比 平成30年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成30年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	50.0	-50.0	0.0
②製品・商品在庫	-50.0	-50.0	0.0
③資金繰り	50.0	50.0	0.0
④採算(収益)	0.0	-50.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	50.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	50.0	0.0	0.0



<業況判断DIの推移>

	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	-100.0	0.0	-33.3	-50.0	0.0
収益	-100.0	0.0	-66.7	-50.0	0.0
総合	-100.0	0.0	-66.7	0.0	0.0

[石油等その他小売]

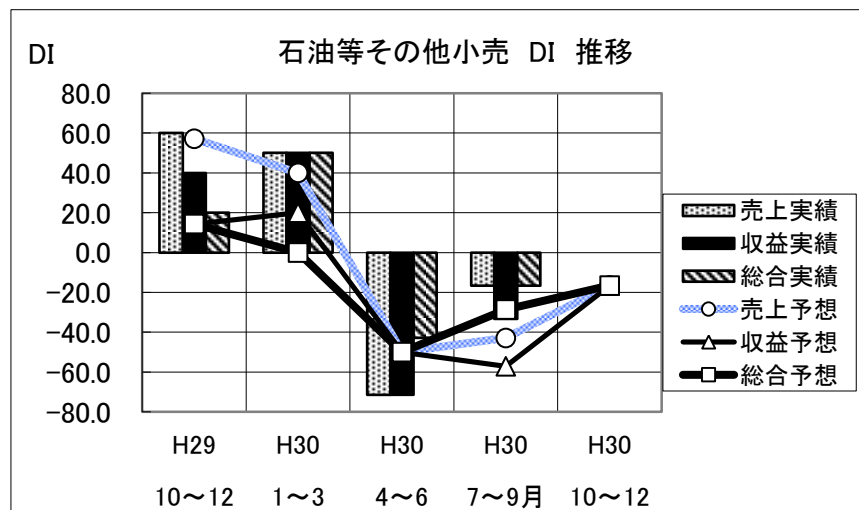
原油需給では、やや供給超過で推移しながらも、OPEC協調減産の内容や米国によるイラン経済制裁等の影響も受けて、70ドル台前後と高値圏で推移した。

向こう3カ月の見通し 需要面では世界経済の底堅い推移のよって需要拡大が見込まれている。供給面では、米国経済制裁の影響をうけるイランやベネズエラ等で減産が見込まれている一方で、カナダ、ブラジル、米国シェールオイル等の増産、OPECの原油市場安定化に向けた取り組みで、原油価格自体はやや値を下げ、軟化する見込みである。(エネルギー部会)

(石油等その他小売)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年7月～9月 に比べて	前期比 平成30年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成30年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-16.7	-16.7	-16.6
②製品・商品在庫	-16.7	-16.7	-16.7
③資金繰り	-16.7	-33.3	-16.7
④採算(収益)	-33.3	-33.3	-16.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-16.7	16.7	-16.7
⑥貴社の業況(総合判断)	-33.3	-16.7	-16.6



<業況判断DIの推移>

	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	60.0	50.0	-71.4	-16.7	-16.6
収益	40.0	50.0	-71.4	-33.3	-16.6
総合	20.0	50.0	-42.8	-16.7	-16.6

サービス業

売上DI値は0.0、前期実績4～6月期(△22.2)に比して22.2ポイントの上昇、収益DI値は△10.0、前期実績4～6月期(△22.2)に比して12.2ポイントの上昇、総合判断DI値は△10.0、前期実績4～6月期(△11.1)に比して1.1ポイントの上昇と、マイナス幅の縮小は見られるも、収益・総合では水面下の状況。

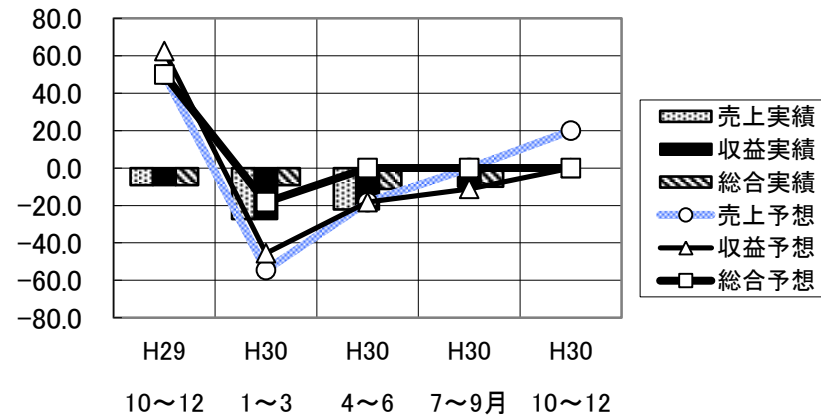
向こう3カ月の見通し 年末の需要期に向けて、売上は上昇。収益・総合は横バイの見通しとなっている。

サービス業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年7月～9月 に比べて	前期比 平成30年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成30年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	10.0	0.0	20.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	10.0
③資金繰り	10.0	-10.0	20.0
④採算(収益)	20.0	-10.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-60.0	-10.0	10.0
⑥貴社の業況(総合判断)	20.0	-10.0	0.0

DI サービス業 DI 推移



<業況判断DIの推移>

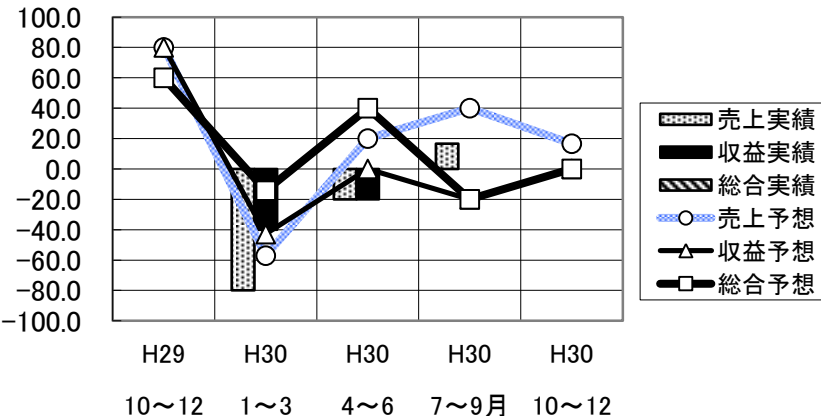
	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	-9.1	-27.2	-22.2	0.0	20.0
収益	-9.1	-27.3	-22.2	-10.0	0.0
総合	-9.1	-9.1	-11.1	-10.0	0.0

【旅館】

宿泊客数は対前年比で7月99.3%、8月98.4%、9月95.1%。7～9月の宿泊者数は若干減少が見られたが、1月以降の通年では前年同等で推移。インバウンド比率の上昇がみられる。今夏は酷暑で、プール需要の高まりも見られたが、旅行客数という面では出控えに繋がった。また週末に上陸した台風も多く、関西国際空港の閉鎖はインバウンドのキャンセルにもつながった。自然災害影響下での横バイは各施設の健闘だと考えている。

向こう3カ月の見通し 年末で忘年会等の需要期に入るが、間際予約が増えており楽観視はできず、前年並みを目指。10月から大型キャンペーン愛知デスティネーションキャンペーン(愛知DC)が開始するも、被災地である西日本・北海道への復興割の影響もあって伸び悩みを懸念している。オンパク・くらふとフェア・ご当地グルメラリー・ダイヤモンドプリンセス来航など、当地の魅力発掘事業を継続していき

DI 旅館 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	0.0	-80.0	-20.0	16.7	16.6
収益	0.0	-40.0	-20.0	0.0	0.0
総合	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

	前年同期比 平成29年7月～9月 に比べて	前期比 平成30年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成30年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	33.3	16.7	16.6
②製品・商品在庫	0.0	0.0	16.7
③資金繰り	0.0	-16.6	16.6
④採算(収益)	33.3	0.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-50.0	-33.3	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	33.3	0.0	0.0

運輸通信業

売上DI値は25.0、前期実績4～6月期(0.0)に比して25.0ポイントの上昇、収益DI値は12.5、前期実績4～6月期(0.0)に比して12.5ポイントの上昇、総合判断DI値は25.0、前期実績4～6月期(0.0)に対して25.0ポイントの上昇と、売上・収益・総合とも上昇。

向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合ともに引き続き上昇の見通しである。

運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年7月～9月 に比べて	前期比 平成30年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成30年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	50.0	25.0	50.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	37.5	37.5	12.5
④採算(収益)	50.0	12.5	25.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	37.5	37.5	25.0
⑥貴社の業況(総合判断)	50.0	25.0	37.5

[旅客・貨物輸送・水運]

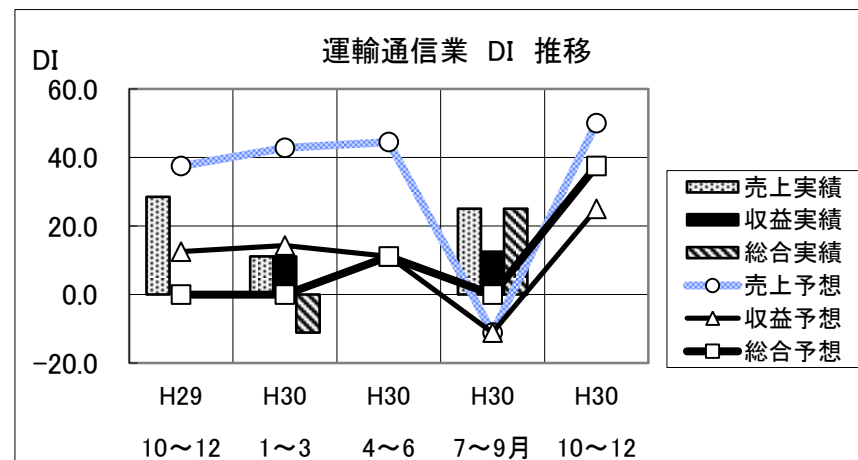
<貨物輸送> 完成車の欧米向け輸出は月1万台程度の好調を維持。海上コンテナ貨物輸出货量も中国中心に好調。鋼材移入も月間1万t程度と好調。向こう3カ月の見通し 完成車輸出は引き続き月間平均1万台を超える見込み。海上コンテナ貨物輸出・鋼材移入も堅調で前期並みか増加の見込み。

<旅客> 8月の売上が特に伸び、昨年の7～9月に対して売上はアップした。向こう3カ月の見通し 秋は観光バスの需要期で、7～9月期に対し1.5倍程度の需要増を見込む。(運輸交通港湾部会)

(旅客・貨物輸送・水運)

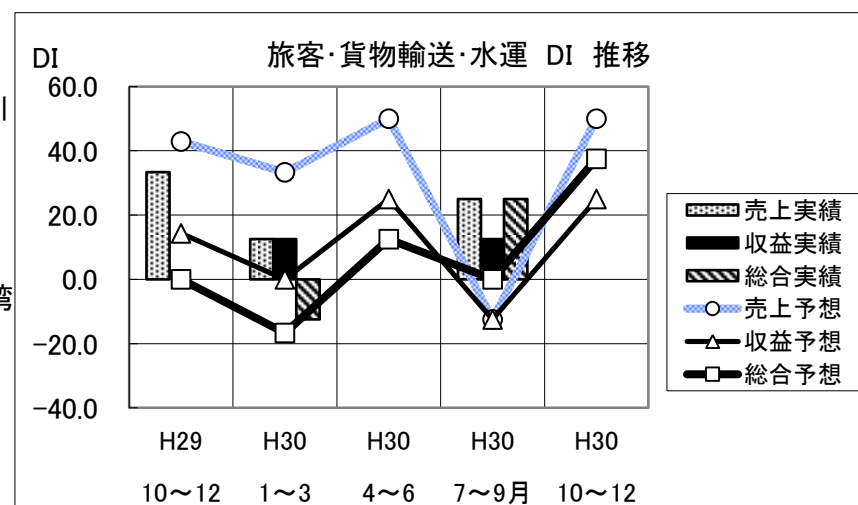
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年7月～9月 に比べて	前期比 平成30年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成30年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	50.0	25.0	50.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	37.5	37.5	12.5
④採算(収益)	50.0	12.5	25.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	37.5	37.5	25.0
⑥貴社の業況(総合判断)	50.0	25.0	37.5



<業況判断DIの推移>

	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	28.5	11.1	0.0	25.0	50.0
収益	0.0	11.1	0.0	12.5	25.0
総合	0.0	-11.1	0.0	25.0	37.5

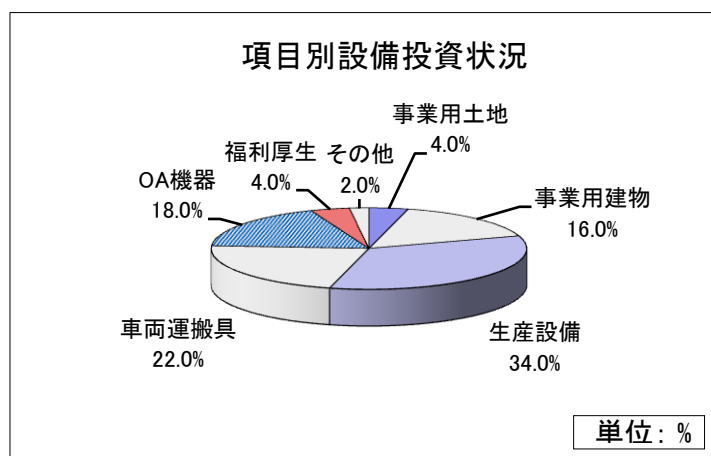
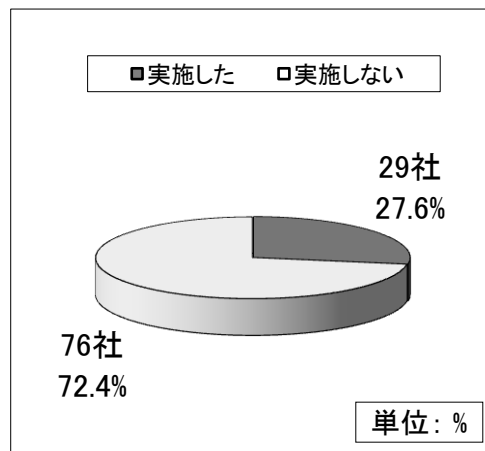


<業況判断DIの推移>

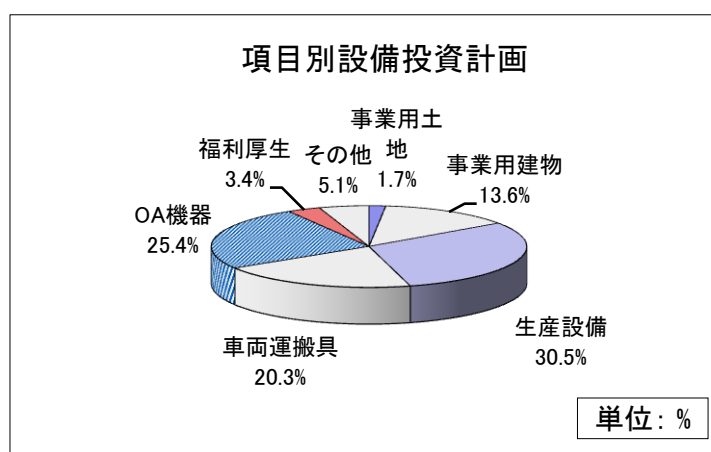
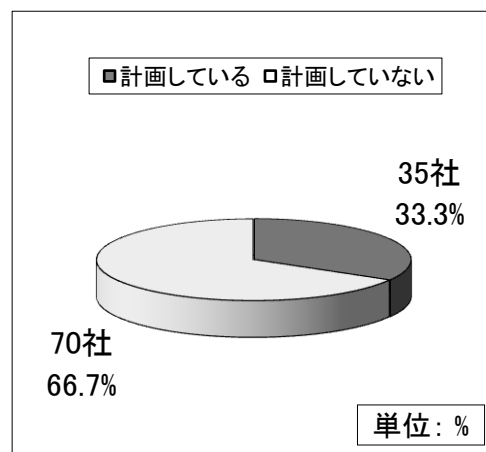
	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	33.4	12.5	0.0	25.0	50.0
収益	0.0	12.5	0.0	12.5	25.0
総合	0.0	-12.5	0.0	25.0	37.5

7. 設備投資動向

＜今期(H30. 7～9月)設備投資実施状況 全業種＞



＜来期(H30. 10～12月)設備計画 全業種＞



◎設備投資・計画内容(全業種)

	今 期	来期見通し
事業用土地	2	1
事業用建物	8	8
生産設備	17	18
車両運搬具	11	12
OA機器	9	15
福利厚生	2	2
その他	1	3
計	50	59

(単位: 件)

◎今期(H30.7～9月)、来期(H30.10～12月)設備投資実施、計画動向

(単位: 事業所)

	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業
1. 今期 (H30. 7～9月)	29	19	2	0	1	2	5
2. 来期 (H30. 10～12月)	35	19	2	1	4	5	4

8. 経営上の問題点

項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 105 社)

	項目	件数 %
1	売上の停滞・減少	49 46.7%
2	人手不足	47 44.8%
3	利幅の縮小	37 35.2%
4	原材料(燃料)高	35 33.3%
5	人件費の増加	31 29.5%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1 位	2 位	3 位
製造業 52 社	人手不足 23 社 44.2%	原材料(燃料)高 23 社 44.2%	売上の停滞・減少 20 社 38.5%
建設業 9 社	人手不足 6 社 66.7%	売上の停滞・減少 5 社 55.6%	人件費の増加 5 社 55.6%
卸売業 11 社	売上の停滞・減少 8 社 72.7%	在庫過多 4 社 36.4%	人件費の増加 3 社 27.3%
小売業 15 社	売上の停滞・減少 10 社 66.7%	競争激化 8 社 53.3%	利幅の縮小 6 社 40.0%
サービス業 10 社	利幅の縮小 5 社 50.0%	売上の停滞・減少 4 社 40.0%	競争激化 3 社 30.0%
運輸通信業 8 社	人手不足 7 社 87.5%	原材料(燃料)高 5 社 62.5%	人件費の増加 4 社 50.0%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

付帯調査(地域データ)

No.80

番号	調査項目	単位	H30. 10報告	基準日	H30. 08報告	基準日	H30. 05報告	基準日	H30. 02報告	基準日	出典
1	人口	人	80,454	H30.9.1	80,361	H30.6.1	80,423	H30.3.1	80,532	H30.1.1	蒲郡市市民課 住民基本台帳
	(うち外国人)		2,863		2,783		2,722		2,680		
2	世帯数	世帯	32,284	H30.9.1	32,158	H30.6.1	31,998	H30.3.1	31,942	H30.1.1	"
	(うち外国人)		1,385		1,329		1,306		1,284		
3	15才～65才生産人口	人	48,264	H30.9.1	48,187	H30.6.1	48,285	H30.3.1	48,419	H30.1.1	"
	(うち外国人)		2,361		2,297		2,261		2,227		
4	建築確認届出件数	件	/	/	/	/	/	/	/	/	蒲郡市建築住宅課 受付件数 (建物の新築および増築の合計件数)
5	全国完全失業率	%	2.4	H30.8月	2.2	H30.5月	2.7	H29.12月	2.8	H29.9月	総務省 「労働力調査」
	愛知県完全失業率	%	1.6	H30.4月～6月	1.7	H30.1月～3月	2.0	H29.10月～12月	2.3	H29.7月～9月	愛知県 「労働力調査地方集計結果」
6	全国有効求人倍率	倍	1.63	H30.8月	1.60	H30.5月	1.59	H30.3月	1.56	H29.11月	厚生労働省 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	1.08	H30.8月	0.96	H30.5月	1.19	H30.2月	1.19	H29.11月	豊川公共職業安定所蒲郡出張所 業務月報より

全国データ

	労働			設備投資・住宅投資		GDP・景気動向指数		消費	
	完全失業者数 (万人)	完全失業率 (季調・%)	有効求人倍率 (季調・倍)	機械受注 (船舶電力除<前年同月比%)	新設住宅着工 (戸数)	名目国内総生産 (兆円)	実質成長率 実質季節調整系列(前期比)	消費支出 前年同月比%(実質)	新車販売台数(登録車) (万台)
1996年度	225	3.3	0.72	11.4	1,630,378	515.9		1.0	-
1997年度	236	3.5	0.69	▲ 3.9	1,341,347	521.2		▲ 0.2	-
1998年度	294	4.3	0.50	▲ 18.6	1,179,536	510.9		▲ 0.8	-
1999年度	320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	506.5		▲ 1.8	-
2000年度	320	4.7	0.59	16.6	1,213,157	510.8		▲ 1.2	-
2001年度	340	5.0	0.59	▲ 12.6	1,173,170	501.7		▲ 3.4	405.9
2002年度	359	5.4	0.54	▲ 3.7	1,145,553	498.0		▲ 0.6	396.6
2003年度	350	5.3	0.64	8.2	1,173,649	501.8		▲ 0.2	402.7
2004年度	313	4.7	0.83	6.5	1,193,038	502.7		0.4	396.2
2005年度	294	4.4	0.95	5.6	1,249,366	505.3		▲ 0.4	392.8
2006年度	275	4.1	1.06	2.0	1,285,246	509.1		▲ 2.2	371.5
2007年度	257	3.9	1.04	0.7	1,035,598	513.0		0.9	342.8
2008年度	265	4.0	0.88	▲ 5.7	1,039,214	489.5		▲ 1.9	321.2
2009年度	336	5.1	0.47	▲ 28.5	775,277	473.9		▲ 0.2	292.1
2010年度	334	5.1	0.52	18.7	819,020	480.5		▲ 0.5	322.9
2011年度	284	4.5	0.65	6.8	841,246	474.1		▲ 2.5	303.1
2012年度	285	4.3	0.80	▲ 4.3	893,002	482.4		1.1	323.7
2013年度	265	4.0	0.93	7.9	987,254	489.6		1.5	343.0
2014年1月	238	3.7	1.04	22.6	77,843			1.1	29.2
(平成26年)2月	232	3.6	1.05	16.1	69,689	127.2	1.0	▲ 2.5	33.6
3月	246	3.6	1.07	1.1	69,411			7.2	48.1
4月	254	3.6	1.08	46.1	75,286			▲ 4.6	18.8
5月	242	3.5	1.09	▲ 1.4	67,791	126.7	▲ 1.8	▲ 8.0	20.6
6月	245	3.7	1.10	15.5	75,757			▲ 3.0	26.5
7月	248	3.8	1.10	8.4	72,880			▲ 5.9	28.5
8月	231	3.5	1.10	0.3	73,771	125.3	0.0	▲ 4.7	20.6
9月	233	3.6	1.09	▲ 1.2	75,882			▲ 5.6	31.5
10月	233	3.5	1.10	▲ 1.6	79,171			▲ 4.0	24.0
11月	219	3.5	1.12	▲ 5.1	78,364	134.5	0.6	▲ 2.5	23.9
12月	210	3.4	1.15	1.9	76,416			▲ 3.4	23.1
2015年1月	231	3.6	1.14	11.2	67,713			▲ 5.1	23.7
(平成27年)2月	226	3.5	1.15	16.5	67,552	131.8	1.5	▲ 3.3	28.8
3月	228	3.4	1.15	9.8	69,887			▲ 9.6	41.8
4月	234	3.3	1.17	▲ 18.7	75,617			1.4	19.8
5月	224	3.3	1.19	0.4	71,720	131.4	0.1	4.8	20.9
6月	224	3.4	1.19	0.3	88,118			▲ 2.0	27.9
7月	222	3.3	1.21	1.0	78,263			▲ 0.2	28.2
8月	225	3.4	1.23	▲ 5.8	80,255	130.3	0.1	2.9	21.1
9月	227	3.4	1.24	▲ 0.3	77,872			▲ 0.4	30.5
10月	208	3.1	1.24	12.2	77,153			▲ 2.4	24.0
11月	209	3.3	1.25	▲ 0.8	79,697	138.2	▲ 0.3	▲ 2.9	23.9
12月	204	3.3	1.27	0.3	75,452			▲ 4.4	23.9
2016年1月	211	3.2	1.28	▲ 11.3	67,815			▲ 3.1	23.7
(平成28年)2月	213	3.3	1.28	▲ 6.7	72,831	133.8	0.8	1.2	27.5
3月	216	3.2	1.30	9.8	75,744			▲ 5.3	40.4
4月	224	3.2	1.34	▲ 1.1	82,398			▲ 0.4	21.2
5月	216	3.2	1.36	▲ 7.3	78,728	133.0	0.2	▲ 1.1	22.3
6月	210	3.2	1.37	1.3	85,953			▲ 2.2	28.7
7月	203	3.1	1.37	▲ 4.2	85,208			▲ 0.5	28.1
8月	212	3.1	1.37	0.2	82,242	131.4	0.3	▲ 4.6	22.3
9月	204	3.0	1.38	▲ 4.5	85,622			▲ 2.1	31.7
10月	195	3.0	1.40	▲ 10.9	87,707			▲ 0.4	24.2
11月	197	3.1	1.41	24.5	85,051	140.2	0.2	▲ 1.5	27.3
12月	193	3.1	1.43	17.3	78,406			▲ 0.3	26.4
2017年1月	197	3.0	1.43	10.7	76,491			▲ 1.2	25.8
(平成29年)2月	188	2.8	1.43	▲ 0.7	70,912	134.6	0.7	▲ 3.8	31.2
3月	188	2.8	1.45	▲ 12.5	75,887			▲ 1.3	46.0
4月	197	2.8	1.48	▲ 0.2	83,979			▲ 1.4	22.4
5月	210	3.1	1.49	8.6	78,481	134.6	0.5	▲ 0.1	23.7
6月	192	2.8	1.51	3.4	87,456			▲ 2.3	31.5
7月	191	2.8	1.52	10.5	83,234			▲ 0.2	27.8
8月	189	2.8	1.52	19.7	80,562	134.2	0.6	0.6	23.3
9月	190	2.8	1.52	7.6	83,128			▲ 0.3	31.8
10月	181	2.8	1.55	12.3	83,057			0.0	23.1
11月	178	2.7	1.56	5.8	84,703	143.0	0.2	1.7	25.8
12月	174	2.8	1.59	▲ 6.6	76,751			▲ 0.1	26.2
2018年1月	159	2.4	1.59	8.7	66,358			2.0	24.3
(平成30年)2月	166	2.5	1.58	7.8	69,071	136.6	▲ 0.2	0.1	29.6
3月	173	2.5	1.59	▲ 2.8	69,616			▲ 0.2	43.8
4月	180	2.5	1.59	11.4	84,226			▲ 1.3	22.5
5月	158	2.2	1.60	15.3	79,539	136.5	0.7	▲ 3.9	23.6
6月	168	2.4	1.62	▲ 4.2	81,275			▲ 1.2	29.2
7月	172	2.4	1.63		82,615			0.1	28.1
8月	170	2.4	1.63		81,860			2.8	23.3
9月									30.8

(内閣府)

(国土交通省)

(内閣府)

(総務省)

(自販連統計)

※ 統計により、岩手・宮城・福島を除くものもございます。